

水田たより 5月号

令和7年5月2日

JA みえきた

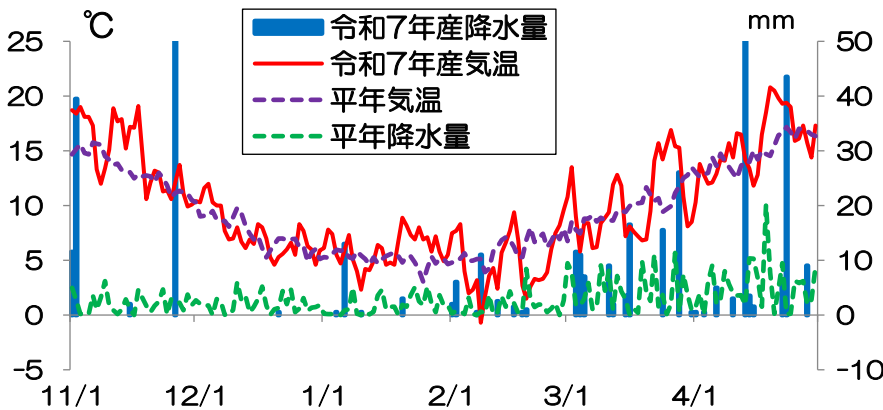
桑名地域農業改良普及センター

麦

気象状況と生育状況

4月上中旬は、気温は平年並みで推移しています。一方、東海地方の1か月予報（4/17 気象庁発表）では、向こう1か月の気温が平年より高い確率は50%と予測されており、今後気温は高く推移すると見込まれます。

○気象状況



R6/11/1~R7/4/30 の概況

◇積算気温
1779℃(平年 1723℃)
◇積算降水量
393 mm(平年 518 mm)
◇積算日照時間
1094 時間(平年 1039 時間)

○生育状況

小麦の出穂期については、「さとのそら」「あやひかり」とともに昨年より1～2週間遅れています。成熟期については、小麦は5月末から6月頭、大麦は5月下旬に迎える予想されます。

地域	品種	播種日	出穂期		成熟期 (※予測)
			令和7年産	(令和6年産)	
桑名・木曽岬	小麦「さとのそら」	11/17	4/14	4/8	5/31
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/7	4/14	4/1	6/1
	大麦「ファイバースノウ」	11/5	4/9	4/7	5/21

※三重県開発の「麦生育予測システム」による（4月30日時点）

近年県内では赤かび病が多発しており、県としては赤かび病の防除を複数回行うことを基本としています。今年の赤かび病の発生はやや多と予想されています（三重県病害虫防除所 4月22日発表）ので、2回目の防除も検討していただくようお願いいたします。

麦

適期に収穫しましょう！

「黄褐色～褐色」で「指の腹ではつぶせないが、爪は割れる程度」が収穫適期です



収穫適期の麦粒



RGB=160.131.71

麦粒色の目安

<早刈り厳禁！>

・高水分の麦粒を収穫すると損傷粒が多くなり、品質低下につながります。

<刈遅れに注意！>

・水分が20%以下になると、脱粒や穂首折れ等により、収穫ロスが急激に増加します。
・成熟期後に降雨が続くと、穂発芽が促進され、低アミロ粒となることがあります。めん等への加工適性が著しく低下するうえ、農産物検査のランク区分にも大きく影響します。

前作の稲わらや雑草など、未熟な有機物の分解が急速に進むと、土壌還元が進み、硫化水素ガスが発生しやすくなります。硫化水素ガスは腐った卵のような匂いが特徴です。

ガスが発生すると、根が傷み、初期生育が遅れ、収量にも影響を及ぼす可能性があります。

近年は気温が高く推移しており、未熟な有機物の分解が急速に進む恐れがあるので、注意が必要です。特に麦跡の移植ではガス湧きのリスクが高くなります。



ガス害により分けつが抑制された様子

ガス湧き後の対応

・ガス害が軽度の場合

夜間落水・翌朝かん水し、水を入れ替える。

・ガス害が重度の場合

落水し、数日間田面が出る程度に軽く干す

※除草剤施用直後に落水すると、薬剤の河川への流出・除草効果低下の恐れがあるため、除草剤施用後7日間は落水しない。

※田干しした後は除草剤の効果が低下し、雑草が発生する可能性がある。発生した草種に応じた中後期剤を施用する。

ガス害の予防対策

・残さを分解する土壌微生物が活動しやすい地温を確保し、酸素を供給しやすくするために、収穫後の耕起を、5～10cmで浅く、早め（できれば10月頃まで）に行う。

・耕起直前に石灰窒素を施用すると、分解を促進できる（目安：20kg/10a）。窒素成分を含むので次作の施肥量に注意する。例えば、石灰窒素20kg施用の場合窒素1kg程度減肥する。また、水生動植物に影響を及ぼす恐れがあるので、河川等に飛散、流入しないよう注意する。

・ヒレタゴボウは、均平が取れていない、適切に水管理ができていない等、田面が露出した場合に多発します。

・中干し後から発生し、稲体に隠れて気付かず成長するために、気付いたときには既に大きくなっているケースが多く見られます。中干し後には、ヒレタゴボウの発生に注意し、草体が小さいうちに防除しましょう。ヒレタゴボウに効果的な薬剤はJAみえきたの稲作こよみを参考にしてください。

・ヒレタゴボウが大きくなってしまうと、除草剤の効果が薄れるため、手取りで除草せざるを得ず、作業負担が大きくなります。



中干し時期に発生した
ヒレタゴボウ



開花したヒレタゴボウ

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索